

全国大会開催される!

2月24~25日、東京・教育会館で第13回定期全国大会が開かれ、全国から代議員・傍聴400名、県連合も井上副代表はじめ4名が参加。詳細は別途報告。



社会民主党第13回定期全国大会

福島原発事故で子どもの甲狀腺がんなど放射線被曝や避難で悲惨な生活を余儀なくさせられている状況にあつて、「放射線の効用と安全性を強調」するような「副読本」の配布は、公教育の場としてパランスを欠くもので、導入目的の「教職員セミナー」と「副読本」配布の中止など8項目について見解を求めた。県教委・指導課長は、H20年の新指導要領に沿ったもの

「さよなら原発・岡山実行委員会」(代表・奥津亘)は2月24日、岡山県教育委員会に文科省が作成した放射線「副読本」の配布中止を申し入れ、約30名が参加。岡山県が全国に先駆け、県内の全小中高に19万部(政令市・岡山除く)配布するというもの。

なぜ、今更「安全性」の議論



放射線「副読本」の使用中止を申し入れ

2月24日

「一方の説明に学校での子どもたちが心配」
 申入れには避難者も参加し、「どうして避難してきたか、教室で共有できるか疑問」一方的な見方を誘導するもので、何で避難してきたのか、おかしなことにつながる。放射線は光と同じと書いてある。ウソではないが、あきらかにミスリードする内容だ。など内容の問題点と、配布反対の意見が続いた。

平和を求める本当の「大声」

日本原基地撤去を求める県民集会在2月11日、県北・奈義町で開催、200名が参加した。当日は、記録的な寒波がウソのように暖かく、山ろくに射撃場が広がる那岐山が雪を抱いて白く輝いていた。

農民同盟から現状報告原発避難者からも挨拶恒例の「大声大会」には子どもを含む17名が挑戦、「平和の絵本」を朗読した親子も。参加者全員に農民同盟から賞品の新米が送られた。



会場の田を提供 驚田さんと

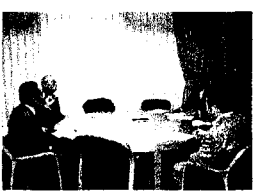
最後に「脱原発」特別決議と「日本原から戦争反対を訴える」集会アピールを採択して各地に帰っていった。

当面する取組み (3月)

- 3月3日14:00~16:00 労金ビル 学習会「放射能汚染がれきと低線量被曝のリスク」
- 3月3日14:00~ 岡山県立図書館 3・8国際女性デー講演会「原発と震災」
- 3月9-11日10:00~17:00 デジタルミュージアム おはなし・合唱・講演「こどもたちの3・11」
- 3月11日10:00~ 岡山市、下石井公園・石山公園 フクシマに連帯 全国行動(トーク・ライブなど)

” 党県連合大会は、別途至急に連絡します。”

2012県予算編成にあたって石井知事に「要望書」を提出



社民党県連合は2月7日、県の2012年度予算編成にあたって、石井知事に「要望書」を提出、県自治体議員団団長の植田高梁市議、福島幹事長・谷村常任顧問・矢吹常任幹事が出席した。

なかでも、大震災・原発事故や大きな風水害など昨年の経験を踏まえて「県民の安全安心、生活本位の県政」へ積極的な取組みを求めるとともに、市町村の交通対策や環境対策など重点的に要望した。石井知事からは、先の県南の水害、海岸沿いの高潮対策などの現状が説明された。

東

日本大震災では「非難せよ」の「命令」口調の防災無線でただ事でないと感じ、とつさに避難して助かったとの記事があつた。同じ「命令」でも橋下市長の「職員アンケート」の回答命令に現場は「思考停止」をもちたらしめているという▼法律の専門家であるはずの市長・顧問が指示した「アンケート」だが、各方面から「違憲・不当労働行為の疑い」があるとの声にも「違法性があるなら修正すればいい(声がなければ違法でない)」とうそぶく▼選挙の勝者の主張が「民意」の全て、「民意無視なら去ってもらおう」と言うが、「少数者の民意(49%まで含む)」を排除することが「民意」の実現ではない。「維新」とは新しい始まりとされるが、新しい独裁者を求めたのではなく「民主主義」の始まりであろう▼都構想の「民意」は、「憲法9条」改悪まで糊塗している。党は先の全国大会で危険な政治動向を指摘し、責任の一端を自覚し信頼回復に全力を挙げることを確認した。

「新報」読者会

毎月・第1火曜日18時
 3月6日 4月3日
 場所 社民党県連合会議室
弓之町「時事問題懇話会」
 毎月・第3金曜日18時
 3月16日 県連合